

エピソード18

「特別支援学級なんて嫌だ」
と子どもが言っています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校で、学級担任をしている先生の経験をお聞きします。

あきと君の保護者から「あきとは、特別支援学級の方がいいのではないかと相談を受けました。

あきと君は、通常学級の学習内容ではできないことも多く、このままでいいのかな、と私も悩んでいたところでした。





先生はどうしたのですか。

「それでは、次年度の特別支援学級への
在籍変更も視野に入れて、様子を見て
いきましょう」ということになりました。

でも、ひとつ大きな問題がありました。





その問題とはどんなことですか。

あきと君が「僕は、特別支援学級は嫌だ。
絶対に行かない」と言うのです。
「今の学級の友だちと離れたくない。」

「一緒に遊べなくなるのは嫌だ。いじめられるかもしれない。」と。あきと君が
そう思う気持ちはよくわかりました。





保護者と先生は、
どのように対応したのですか。

焦らないで、ゆっくり時間をかけて、
本人が納得できることを考えました。

まずおためしで、短時間ですが、
支援学級で生活する時間をつくりました。





あきと君の様子は怎么样了か。

はじめは嫌そうでした。でも支援学級では自分のペースで学習できるし、できることがたくさん増えて自信につながったようです。

先生や友だちから「すごいね」と言われて、うれしそうな顔をするのが増えていきました。





保護者はどうでしたか。

「家庭でも、学校の様子を話してくれるようになった」と報告してくれました。

そして保護者も「よかったね、すごいね」と声をかけて、一緒に喜んだそうです。





その後のあきと君について
教えてください。

次年度から、特別支援学級に在籍を変更
しました。親学級と支援学級の担任の
協力体制もあり、元気に生活しています。

支援学級に在籍していても、親学級である
通常学級で交流・共同学習をする時間も多く、
友だちと一緒に遊ぶことももちろんできます。





なみちちゃんの一言

- 特別支援学級に在籍を変更するという事は、子どもにも保護者にもとても大きな決断です。
- ゆっくりと時間をかけて、納得するまで待つことが大切です。その際には、子どもの不安が解消するように、具体的な手立てが必要です。
- 自分の力を発揮し、認められることで自信が持てるような学習環境は、どの子どもにも必要なことです。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)